

静岡大学生涯学習教育研究センター

# 地域と大学

第10号

Newsletter No. 10, Center for Education and Research of Lifelong Learning

## University of Minnesotaの地域貢献 ～Extension Service、Minnesota International Centerでのインタビュー

総務部研究協力課研究協力係 寺尾 静乃

て持つ、地域貢献、地域との共同研究のためのオフィス。コミュニティの発展と活性化、食料と環境問題、青少年教育プログラムなどを重点領域とし、大学の学部と共同でワークショップ、会議、短期学習プログラム等をミネソタ州各地で行っている。

ミネソタ州を7の地域に分類、さらにその中を87のcountryに区分し、各countryにオフィスを置いている。250人のスタッフ、研究者が各countryに住んで、コミュニティと大学を結ぶ役割を果たし、実地研究、地域との共同研究をしている。また20人ほどの市民がオフィスの委員会に参加し、countryのニーズを報告し、企画運営に参加する。

160ものワークショップが各地で開かれ、その分野はコミュニティ、環境、家族、農業、ガーデン、生活の6つ。テーマは「食物の栄養学」「子育て」「ボランティア活動」「ガーデニングデザイン」「農地・土壌・灌漑」など生活に密着した、またその地域性を出したもの。またインターネットを利用



ミシシッピ川を挟んで広大なキャンパスが広がり、長い冬は雪に覆われ、春は芝生や花が眩しいほどのキャンパスの中を、ローラーブレイドやマウンテンバイクで学生が行き交う。ミネソタ州ミネアポリス、生徒数約5万人、300もの分野で学位が取得できる全米でも大規模なミネソタ大学で、2002年1月から5月までインターンを経験した。私は留学生や外国人研究者に対するビザ等のアドバイス、カウンセリングのサービス等を行う国際交流オフィスでインターンをしていたが、以前大学で生涯学習の事務をしていた経験があり、地域と大学の結びつきに興味があったため、ミネソタ大学の主に地域貢献事業を行っているオフィスにインタビューに行った。ここでそのインタビュー・事業内容を紹介したいと思う。

ミネソタ大学はLand Grant University という、元々地域の農業の振興に寄与することを大きな目的として設立された大学であり、このような歴史的背景をもつ大学になかでExtension Serviceは、特に実地教育、地域サービスを主な役割とし



写真上はミネソタ大学大学院卒業式、写真下はインターナショナルオフィスのスタッフと筆者(右端)

したオンラインコースも「イベントマネジメント」「コミュニティ経済分析」「青少年教育」等15コースあり、無料で自由に受講できる。

その他に、地域と留学生との強い結びつきを実現しているのがMinnesota International Center。大学からは独立した非営利団体で、地域の国際化を促進することを目的とし、インターナショナルオフィスや他のオフィスと協力して、留学生、外国人研究者等に、様々なプログラムを提供している。Dinner Hosting Program は、International Center のメンバー(会員)であるミネソタのコミュニティの一般家庭を訪問する。ホストの家庭では、ディナーを提供し、車のない学生のためには送り迎えのサービスをする。このプログラムは、留学生にミネソタの家庭の日常生活を経験させる、異文化を共有することを目的に、通年行われる。International Classroom Connection Program はミネソタの小、中、高校に留学生が訪問して、その国の文化の紹介、プレゼンテーションを行う。参加者は、年4回開かれるトレーニングに参加し、現在実際に教えているスピーカーからの話を聞き、

効果的な教授方法などについて学ぶ。Great Minnesota は、2人から8人の留学生のグループが、2～3日の日程で、ミネソタの郊外でホームステイをし、そのコミュニティの学校で自国の文化についてのプレゼンテーションをする。

このように、ミネソタ大学では様々な方法で大学と地域の連携を築いている。コミュニティに様々な形で「学ぶ」機会を与え、学生、特に留学生など経験や知識を地域のために発信できる者たちに、その機会を提供する、コミュニティにスタッフを置くことで地域のニーズを十分に取り入れる体制を整える等、大学から地域、地域から大学へと双方向の結びつきを実現している多くのプログラムがあった。

参考：ホームページアドレス  
 University of Minnesota Extension Service  
<http://www.extension.umn.edu/>  
 Minnesota International Center  
<http://www.micglobe.org/>

## 平成14年度静岡大学公開講座の詳細内容

今年度の公開講座は、新しい試みで静岡・清水会場において実技を伴う講座を開講することになりました。浜松・沼津会場は講義が中心ですが、静岡県という地域を取り上げた「静岡発の産業と文化」がテーマです。実技や地域の歴史・文化な

ど、どの会場でも受講希望の高かったテーマです。なお、浜松会場については、会場を交通の利便なところへ移しました。以下が講座の内容と会場、開催期間などです。

### 【静岡会場】

**講座名称：住まいと木材～講義と実験～**  
 会場：静岡大学農学部講義・実験室  
 開催期間：8/27(火)、8/28(水)両日とも9:00～17:00  
 申込受付：7/30(火)～8/13(火) 受講料：6,800円  
 受付場所：静岡大学研究協力課共同施設係 Tel 054-238-4264  
**講座内容：8月27日(火)**  
 9時～10時 高木 滋 生 高木設計事務所長「住んでよし、使ってよしの木造建築」  
 10時～11時 今山 延 洋 教育学部教授「学校教育と木材」  
 11時～12時 吉田 彌 明 農学部教授「木質材料・VOC」  
 A班午後 山田 雅 章 農学部助手 講義と実験「接着加工・性能試験」  
 安村 基 農学部助教授 講義と実験「木構造耐震性試験」  
 B班午後 祖父江信夫 農学部教授 講義と実験「含水率と木材強度」  
 渡邊 拓 農学部助教授 講義と実験「ホルムアルデヒド等測定試験」  
**8月28日(水)**  
 9時～10時 祖父江信夫 農学部教授「木材乾燥の基礎と実際」  
 10時～11時 小川 裕 子 教育学部助教授「高齢者・障害者の自立を支える住まい」  
 11時～12時 石原 茂 久 京大名誉教授「炭化・廃材処理」  
 A班午後 祖父江信夫 農学部教授 講義と実験「含水率と木材強度」

渡邊 拓 農学部助教授 講義と実験「ホルムアルデヒド等測定試験」  
 B班午後 山田雅章 農学部助手 講義と実験「接着加工・性能試験」  
 安村 基 農学部助教授 講義と実験「木構造耐震性試験」

### 【清水会場】

**講座名称：運動習慣と生活習慣病**  
 会場：(講義)清水市中央公民館、(実技)清見瀉公園スポーツセンター  
 開催期間：9/21、28、10/5、12、19、26 各土曜日14:00～16:00 (6回)  
 申込受付：8/26(月)～9/6(金) 受講料：6,800円  
 受付場所：清水市中央公民館 Tel 0543-54-1321  
**講座内容：生活習慣病予防の講義2回と楽しく動くウォーキング、軽スポーツの実際や健康体力測定など実技4回を行います。**  
 9月21日(出) 山本 裕 之 保健管理センター助教授「生活習慣病と運動」  
 9月28日(出) 稲村 欣 作 教育学部教授「運動の科学」  
 10月5、12日(出) 中野 偉 夫 教育学部教授  
 横山 義 昭 教育学部教授  
 「ウォーキングとその効果」「身近な道具を用いて楽しい運動」  
 10月19、26日(出) 河合 学 教育学部助教授  
 杉山 康 司 教育学部助教授  
 「ニュースポーツI、ニュースポーツII」

## 【浜松会場】

### 講座名称：静岡発の産業と文化

会場：クリエイティブ浜松（浜松市早馬町）

開催期間：8/31、9/7、14、21、28 各土曜日14:00～16:00

申込受付：8/5(月)～8/16(金) 受講料：5,800円

受付場所：静岡大学研究協力課地域連携推進室（浜松） Tel 053-478-1667

講座内容：静岡県を起点に発展した産業・文化を検証し、醸造業や楽器産業の将来を眺めます

- 8月31日(土) 本多隆成 人文学部教授 「近世静岡県の河川と産業」  
9月7日(土) 荒川章二 情報学部教授 「近代静岡県西部の産業と経済」  
9月14日(土) 河村傳兵衛 県沼津工業技術センター研究技監 「成熟食品産業のリニューアル化」  
9月21日(土) 林田甫 ヤマハ(株)ピアノ事業部長 「ピアノ100年の歩み」  
9月28日(土) 小櫻義明 人文学部教授 「静岡県これからの産業と経済」

## 【沼津会場】

### 講座名称：静岡発の産業と文化

会場：沼津市民文化センター（沼津市御幸町）

開催期間：9/7、14、28、10/12、19 各土曜日14:00～16:00

申込受付：8/12(月)～8/23(金) 受講料：5,800円

受付場所：沼津市教育委員会生涯教育課 Tel 055-951-3420

講座内容：静岡県を起点に発展した産業・文化を検証し、醸造、製紙業の将来を眺めます

- 9月7日(土) 本多隆成 人文学部教授 「近世静岡県の河川と産業」  
9月14日(土) 荒川章二 情報学部教授 「近代静岡県東部の産業と経済」  
9月28日(土) 河村傳兵衛 県沼津工業技術センター研究技監 「成熟食品産業のリニューアル化」  
10月12日(土) 鈴木恭治 農学部教授 「水と製紙業」  
10月19日(土) 小櫻義明 人文学部教授 「静岡県これからの産業と経済」

## 平成14年度後期生涯学習教育研究センターの実施事業

生涯学習教育研究センターでは、この8月から後期にかけて大学開放と地域貢献を目的に次のような事業を展開します。

### 1 「しずだい飛ぶ教室 in伊豆」

静岡大学の教官を町村へ派遣し出前講演会を行います。

#### ① 8月27日(火) 10:30～12:00

会場：賀茂郡賀茂村中央公民館ホール

共催：賀茂地区社会教育協会

テーマ：家庭教育研修会「他人（ひと）の気持ちがわかる子に育つ」

講師：教育学部助教授 郷式 徹 氏

#### ② 9月27日(金) 9:00～16:00

会場：南伊豆町中央公民館集合

共催：賀茂郡南伊豆町教育委員会

テーマ：「南伊豆史跡めぐり」

講師：静岡大学名誉教授 原 秀三郎 氏

### 2 「キャンパスツアー2002」

今年も大学祭に合わせ、広報委員会、キャンパスミュージアムと本センターの共催で各学部の研究室、展示室の市民開放を実施します。

開催時期：11/16(土)、11/17(日)両日とも13:00～15:00

各学部ごとに共同研究室や実験室・展示室を開放、市民に学内を探訪してもらう

### 3 「きて見て静大」の実施

一昨年、昨年に引き続き「きて見て静大」を静岡会

場と浜松会場で実施します。

○浜松会場は、10/30、11/13、11/27（予定）に、バレリー・アン・ウィルキンソン情報学部教授による「映画からみた文化を考える」（仮題）講座を情報学部にて開催します。

○静岡会場は昨年と同じ「やきもの考古学③」を1月26日、2月1、2、9、16日の5回を予定しています。静岡大学大谷キャンパス内で開催します。

### 4 「エルネットオープンカレッジ」

「きて見て静大」のうち「やきもの考古学」が文部科学省生涯学習政策局の事業で、オープンカレッジとして全国に衛星放送する公開講座となることが決定しました。

「きて見て静大」の講義集録のうち2回分を録画、編集し直し衛星通信で放映されます。

2月8日(土) 13:00～15:00、2月22日(土) 13:00～15:00に放映され、2月22日は直接講師との質疑が行われます。キー局は掛川市にある静岡県総合教育センター「あすなろ」で、この地域での希望者は県内30ほどの受信施設で聴講できます。

### 5 「学習ネットワークと生涯学習⑤」公開シンポジウムの開催

今年度の学習ネットワークづくりの実践報告を主とした、SCSシステム利用・公開シンポジウムは、例年どおり、1月中旬～下旬に開催致します。今年で第5回となりますが、年々受信局が増え、各地の国立大学生涯学習教育研究センターが関心を高めていることが伺えます。

## 平成14年度実施の生涯学習教育研究センター事業の報告

### ○『大学と博物館を結ぶ⑤』『博物館のいま～学芸員、苦勞を語る～』

平成14年7月6日(土)13:00～16:00の予定で、静岡キャンパス共通教育A301室と浜松キャンパス情報学部大会議室をテレビ会議システムでむすび、今年度の「大学と博物館を結ぶ⑤～博物館学芸員、苦勞を語る～」の公開シンポジウムを開催しました。

東京都江戸東京博物館の早川典子学芸員（本学人文学部卒業生）、静岡県立美術館の新建史学芸員、静岡市日本平動物園の佐渡友陽一学芸担当主事の三人の方が静岡キャンパスで、浜松市博物館の斉藤新主任学芸員、浜松市楽器博物館の嶋和彦主幹の二人の方が浜松キャンパスでライブ放送として参加いただきました。

それぞれ歴史系、美術系、自然史系、専門系（楽器）の博物館の特徴や現在取り組んでおられることを語られたあと、最近の博学連携の動きや、学校教育での総合的な時間と博物館の関わり、組織のありかたや博物館の評価といった課題について各館の取り組みをもとに、討論されました。

参加した学芸員希望の学生や、博物館関係者、社会人の方から質問も飛び、有意義なシンポジウムとなりましたし、昨年度は聞くだけだった浜松地区では、アンケートの結果でも大変好評でした。静岡地区120名、浜松地区30名の参加を得ました。

## ○特別公開シンポジウム「21世紀に生まれ育つ子供たちのために」 ～映画上映と龍村仁監督を囲んで～

日 時：平成14年6月1日(土) 13:00～17:00  
場 所：アクトシティ浜松・大ホール  
基調講演：龍村 仁監督 パネラー：鈴木通代SBS  
アナウンサー、中井弘和副学長  
司 会：滝 欽二センター長



本年度の学外公開シンポジウムは、開学記念日に合わせ、特別公開シンポジウムとして『21世紀に生まれ育つ子供たちのために』をテーマとした映画上映とパネルディスカッションを開催しました。当日は、『地球交響曲第四番』の上映のあと、龍村監督が映画に登場する世界的な著名人の21世紀に生まれ育つ子供へのメッセージの背景を語り、これをもとに滝センター長のコーディネートで監督、鈴木アナウンサー、中井副学長によるパネルディスカッションが行われました。参加者は800名ほどでした。

アンケートにも128名の方から回答いただきました。  
(アンケート結果概要)

- ① 今回の特別シンポの第一の特徴は、若い世代の参加者が多かったことです。公開講座受講生の平均年齢は50歳～60歳ですが、今回は平均年齢は35歳でした。特に10代までの小中高校生およびその保護者にあたる20代～40代の参加者がほとんどでした。
- ② 参加者の居住地については、浜松市内が全体の3/4を占め、市外では静岡市、次いで磐田市、浜北市など周辺の市町村からの参加者が多かった。また、センターHPの情報から愛知県など県外からの参加者もありました。
- ③ 広報媒体については、学校からのお知らせ、口コミ、新聞の順でした。企画段階から附属学校PTAおよび教職員の方の協力をいただいたことに

- より、若い世代の親子での参加が多くなり、総合学習および学校週五日制にも対応した学習機会となったということが第二の特徴だと思われます。
- ④ 「興味をもった事柄」については、地球交響曲という映画および監督のお話という答えが圧倒的に多く、中でも地球、自然、生命との共存・共生が印象深かったということでした。また、静大がこうしたテーマを取り上げたことという回答もありました。
  - ⑤ 「21世紀に生まれ育つ子供たちのために大切なこと」は、やはり地球との共存・共生という姿勢を育てることが多く、次いで個性豊かな登場人物に影響されてか、個性を育て、活かす環境という答えが続きました。
  - ⑥ 「静大がすべき地域貢献」については、とにかく地域において身近な存在となること、もっと手軽に大学の教育・研究の内容がわかる公開講座・公開授業、教職員・学生と地域住民と一緒に考え行動できる開放事業の開催といった回答が多くみられました。また、静大が、幅広い年齢層が参加でき、意見が述べられる今回のようなイベントが企画できるとは思わなかったというやや辛口の激励もありました。



## 生涯学習教育研究センター通信

○「ふじのくにユースカレッジ」青少年リーダー育成事業の実施  
静岡県教育委員会青少年課との共同事業で、青少年リーダー養成の講座、グループ活動を6月22日から2月15日まで6回と特別演習1回実施することになりました。

- 6/22(土) 10:00～12:00開講式 於：静大大会館  
内田忠平常葉学園大学教授(ユースカレッジ学長)「生涯学習社会における地域づくり」
- 7/6(土) 10:00～12:00 於：県庁  
中井弘和副学長 「環境再生と地域づくり ～清沢塾の活動を通して」
- 8/24(土) 10:00～12:00 於：グランシップ  
小櫻義明人文学部教授「NPO・ボランティア活動と地域づくり」
- 9/28(土) 10:00～12:00 於：静大図書館SCSメディアルーム  
SCSシステムで宮崎大学、宮崎県と遠隔シンポ～宮崎と静岡を結んで
- 11/9(土) 10:00～ 清沢塾・収穫祭に合わせた特別演習
- 12/7(土) 10:00～ 於：静大大会館(予定)  
石川憲彦教授、防災ネットワーク「防災ボランティアネットワーク」
- 2/15(土) 10:00～12:00 於：静大大会館  
松永由弥子静岡産業大学助教授「事業プログラム立案と調査手法」

今年度センター運営委員

委員長	滝 欽二センター長		
センター教官	柴垣勇夫	センター教官	阿部耕也
人文学部	青山茂樹	教育学部	石井山竜平
情報学部	高松良幸	理学部	山内清志
工学部	道下幸志	農学部	徳山信治
電子科研	新妻清三郎	電子工学	木下治久

生涯学習教育研究センターでは、学内の公開講座情報、大学開放事業などを掲載し広報します。最近の計画、将来計画をセンターまでお寄せ下さい。  
ホームページ <http://www.shizuoka.ac.jp/~cerll/>

## 地域と大学 第10号

静岡大学生涯学習教育研究センター情報誌

平成14年7月31日発行

〒422-8529 静岡市大谷836 (理学部B棟1階)  
静岡大学生涯学習教育研究センター  
TEL 054-237-1111(代)  
TEL/FAX

054-238-4817(資料室・受付)  
事務局 静岡大学研究協力課共同施設係 TEL054-238-4264



古紙配合率70%再生紙を使用しています